

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
		20/21
1 評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている	○ 非該当
評価項目1の講評		
<p>計画における目標、方針、支援内容、ポイントなどを踏まえて支援にあたっている</p> <p>個別支援計画の作成時の情報共有に加えて、できる限り常勤職員全員で支援会議を行い、個々の目標や支援のポイントなどを共有している。そして、日々の支援にあたっては、支援前のミーティングにて活動に対し、個別支援計画に沿った形で参加していけるよう支援方法を確認している。子どもとのかかわりにおいて、特にコミュニケーション上の配慮が必要な場合は、絵カードや手話なども活用して、子どもの理解、伝わりやすさなどを踏まえて対応している。</p>		

2 評価項目2		この評価項目は入力できません	
【食事の支援がある事業所のみ】子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている		評点()	
評価	標準項目		
○ あり ○ なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	○ 非該当	
○ あり ○ なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	○ 非該当	
○ あり ○ なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	○ 非該当	
○ あり ○ なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	○ 非該当	
○ あり ○ なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	○ 非該当	
○ あり ○ なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	○ 非該当	
評価項目2の講評		この評価項目は入力できません	

3 評価項目3 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている			評点(00000)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 身の回りのことは自分で行えるよう、必要な支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている		○ 非該当
評価項目3の講評			
<p>日々の活動を通して、挨拶、マナー、ルールなどの理解・習得を援助している</p> <p>「必要以上に手を貸さない」というスタンスで、声掛けやサポートをしている。「基本的な生活習慣や社会生活上のルール」という点では、戸外活動で公園に行く際は、「前に立ち過ぎない」「周りに注意を向けられるか」「横断歩道で止まれるか」などといった点に留意し、子どもが自発的に動けるようになるように援助している。また、トイレや清潔の保持、着脱、挨拶などのマナーなど、社会に出た時に困ることなく、また生きていく上で必要な力を身につけていけるよう、長期的な見通しになって、必要な力を育てていけるようかかわっている。</p> <p>遊びの要素を活動に取り入れ、様々な感覚や能力を養っている</p> <p>身体的アプローチをメインとした活動に遊びの要素も取り入れている。「身体全体を使った活動」のねらいは様々あり、例えば、触れるのが苦手な場合は、情緒も影響するため、触れ合いや感触からアプローチも行っている。日々行う巧技台を用いた活動では、身体操作やバランス感覚などを養っている。バランスボールなどでも体幹を養っている。活動には、飽きることのないようゲームの要素を取り入れている。また、場面の切り替えに応じたメリハリや気持ちの切り替え、見通しを持った活動・行動も大切にしている。</p>			
4 評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている			評点(00)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている		○ 非該当
評価項目4の講評			
<p>子どもの健康状態、身体の状態など、支援上踏まえるべき事柄を確認している</p> <p>事業所を見学する際に、既往歴などの健康情報を確認している。特に、子どもの身体について、動かしてはいけない部位や範囲などを確認している。契約の段階においても、健康に関する基礎情報の提供を受けている。日々の来所の際は、体温や鼻水の色、咳の有無・状況など確認し、保護者とも共有している。</p> <p>配慮が必要な身体の状態と必要な配慮をあらかじめ確認し、適切に対応している</p> <p>特別に対応することが必要な事項については、例えば、身体の特定の状態を呈した場合の対応などを特定し、個別支援計画にも盛り込み、それに沿った支援をしている。息遣いなど、子どもが示す状態の変化に注意し、休憩をとったり、座る活動に切り替えたりするなど、個々の特性や留意事項を踏まえた適切な対応をとっている。</p>			

5 評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている			評点(0000)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 【放課後等デイサービス】 子どもの状況に応じて利用日や利用時間を設定している		○ 非該当
評価項目5の講評			
<p>環境設定の工夫により、子どもの安全な活動を支えている</p> <p>訓練室のあり方としては、限られたスペースの中で巧技台などを設定して活動するため、まずは安全性の維持に配慮している。床はラバーマットにより安全性に配慮し、マットは清潔感を維持している。室内は白を基調として、真ん中に広いスペースがあり、巧技台などはその都度セットしている。子どもは様々なものに興味を持ち、触れるため、子どもが触れても大丈夫なものを設定している。ハサミなどは危なくないように子どもの手の届かないところで管理している。言葉による行動の静止ではなく、環境設定により安全な行動を支えている。</p> <p>限られたスペースの中で、子どものための環境の維持を工夫している</p> <p>巧技台などは、部屋の隅に保管している。職員の配慮により安全性を確保しつつも、子どもも気をひかれることもある。収納場所の確保が難しい状況がある中でも、運用、すなわち、日々の工夫によって、子どもの活動スペースの確保、子どもが活動に集中できる環境の維持に取り組んでいる。</p>			
6 評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている			評点(0000)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している		○ 非該当
評価項目6の講評			
<p>専門的な視点に基づくフィードバックを中心に、家庭と子どもの様子を共有している</p> <p>「どの子どもをどの職員が中心的に担当するか」をあらかじめ決定し、利用の度にサービス提供記録などを通して子どもの様子を保護と共有している。家庭での子どもの過ごし方、様子などについても確認している。また、日々の療育の実践内容、子どもの状態の推移などを毎月総括し、専門的な視点から保護者にフィードバックしている。加えて、半年ごとのモニタリングの際も、状況を伝え、保護者の意向・意見も確認している。こうした協力・連携を活かして、子どもの成長を保護者と共有し、ともに子どもの育ちを支えている。</p> <p>相談支援の状況を記録しその後の支援に活かしている</p> <p>家庭の状況などを踏まえて、方法やタイミングなどを工夫して保護者に助言を行っている。保護者からの相談は、件数としては多くはないものの、寄せられた相談や対応の経過、留意事項などは付箋にメモしたり、日誌に書き留めたりすることで共有し、個人ファイルの家庭状況欄に反映している。</p>			

7 評価項目7		地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(○○●)	
評価		標準項目			
● あり ○ なし		1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している		○ 非該当	
● あり ○ なし		2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている		○ 非該当	
○ あり ● なし		3. 【児童発達支援センター】 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している		○ 非該当	
評価項目7の講評					
<p>地域との連携に対し、前向きに捉えている</p> <p>児童発達支援センターとのかかわりとしては、区からの情報提供のもとに、可能な機会には参加するようにしている。「地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象にした支援」という点では、現段階では情報収集の幅を広げていくことに対し、前向きに捉えている。</p>					